

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

「当たり前」に感謝を

川南町立唐瀬原中学校

三年 中村 煌

「税の作文何書こう？」持ち帰った教科書が積み上がる机と向き合う夏休み。ふと目を上げた先には「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という文章がありました。私たちにあって身近な教科書が税金によって無償になっていることを知り、詳しく調べてみることにしました。

一九六一年、高知県の貧しい漁村で「子供たちを学校にやりたい」という親の思いから教科書無償の運動が始まりました。その当時の母親たちの収入では、教科書を買うことができませんでした。母親たちは何度も思いを伝えましたがなかなか叶いませんでした。それでもあきらめずたまたかい続けた結果、ようやく思いは届き、ついに一九六四年、教科書の無償化が実現され始めました。

私は教科書無償化の歴史を今回初めて知りました。今、私たちが当たり前のように使っている教科書は、たくさんの苦労や思いがあり無償になっているんだということを知ることができました。子供たちのため、そして私たち未来に生きる子供たちのためにたたかい続けてくださった方々の思い・願いをしっかりと受け止め、これからも教科書を大切にし、勉強に励んでいきたいと思えます。

私はこの作文を書く前には、消費税がなければ、もう少し安く買うことができるのと思うことがありました。しかし、税金という制度が無ければ今の当たり前もなくなってしまうかもしれないと思うととてもありがたいなと感じます。この作文を書くために調べたことがきっかけで自分の考えを変えることができました。私もいつか、納税という義務を与えられます。大人になったときにその義務をしっかりと果たすことができる人になりたいと思います。そのために今のうちから身近な税について様々なことを学び、将来の役に立てていきたいと思えます。

改めて、今回学んだことを忘れず税について関心を持ち、正しく理解していきたいと思えます。